

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	とおりゃんせサードプレイス海 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2025年6月10日		～	2025年7月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年6月10日		～	2025年7月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フード、エクササイズ、ブレインを合言葉に、子どもたちの可能性を広げる支援を行っています。	事業所内にて丁寧に手作りした昼食やおやつを提供しています。食材や調味料も厳選し、子どもの体にいい献立となっています。	第二の脳といわれる腸にとって食は大切です。トレーニングでエネルギーを消費した脳に必要な栄養を運ぶためにも、食の大切さを伝え続けます。
2	PT、OTなどの専門職が多数在籍し、脳科学に基づいた評価トレーニングを個別、集団で実施しています。	機能神経学に基づいた脳の発育バランスを整えるトレーニングを行い、気になる症状の改善を図っています。	固定化しないプログラムを立案し、子どもの五感に働きかけるアプローチを行います。
3	施設空間も広く、多目的室ではボルタリングやダイナミックな全身運動に取り組んでいます。	運動発達の著しい時期に様々な運動の基本となる動きを身につけられるよう、多様な活動を提供しています。	「時間」「仲間」「活動」を明確にし、子どもたちの健全な成長を図るための環境を整えます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ全員が打ち合わせに参加できる時間の確保が難しいです。	出勤時間にバラつきがあり、時間の確保が難しいです。	書面で把握する等、スタッフ全員に周知できるよう努めます。
2	子どもの安全確保に関して、取組内容の情報をご家族が把握できていません。	避難計画や訓練は利用時に実施されているが、ご家族を対象に行っていません。	事業所内に、避難経路や避難所を明記、掲示し、ご家族へ周知する。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	とおりゃんせサードブレイス海 児童発達支援	公表日 2025年9月25日
------	-----------------------	----------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		机上活動、運動室、静養室に部屋が区分されており、十分なスペースがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		必要に応じて人数を調整している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関はバリアフリー化されている。階段には手すりが設置されている。扉は引き戸のため、車椅子利用の子も過ごしやすい環境となっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃。 活動の種類によって、部屋を分けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		用途に応じた部屋を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務内容をその都度振り返り、職員全体で改善を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートを行い、結果をホームページで公表している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の申し送りを実施し、早期対応できるよう努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		積極的に外部研修に参加している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		利用開始時にBBITの質問用紙をとっている。 基本情報のアセスメント用紙も職員全体で確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育士、機能訓練スタッフなど、多職種でプログラムを主導している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節の行事の取り入れや、お出かけの実施などを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援内容の進捗状況を確認して、多職種で連携している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		出勤時間にバラつきがあるため、打ち合わせ時間を確保できていないのが現状であり、今後の検討事項である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と積極的に連携を図れる体制がある。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関を訪問し、情報共有しながら併行利用を支援している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		電話や訪問で情報共有を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の幼稚園の園開放に参加したり、地域の行事に参加している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		季節の行事を保護者やきょうだい参加で行い、交流を図れる場を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の通信やホームページ、Instagram等のSNSを通じて発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の事業所に手作りお弁当の配達や、カフェスペース、持ち寄った不要品のお持ち帰りコーナーを設置している。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		自然災害や感染症等に対するBCPの策定。避難訓練の実施。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		身体拘束・虐待防止マニュアルの策定。指針をホームページで公表。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束・虐待防止マニュアルの策定。指針をホームページで公表。	

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	とおりゃんせサードプレイス海 放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	2025年6月10日 ～ 2025年7月12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年6月10日 ～ 2025年7月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フード、ブレイン、エクササイズを合言葉に、子どもたちの可能性を広げる支援を行っています。	事業所内にて丁寧に手作りした昼食やおやつを提供しています。食材や調味料も厳選し、子どもの体にいい献立となっています。	第二の脳といわれる腸にとって食は大切です。トレーニングでエネルギーを消費した脳に必要な栄養を運ぶためにも、食の大切さを伝え続けます。
2	PT、OTなどの専門職が多数在籍し、脳科学に基づいた評価トレーニングを個別、集団で実施しています。	機能神経学に基づいた脳の発育バランスを整えるトレーニングを行い、気になる症状の改善を図っています。	固定化しないプログラムを立案し、子どもの五感に働きかけるアプローチを行います。
3	施設空間も広く、多目的室ではボルタリングやダイナミックな全身運動に取り組んでいます。	運動発達の著しい時期に様々な運動の基本となる動きを身につけられるよう、多様な活動を提供しています。	「時間」「仲間」「活動」を明確にし、子どもたちの健全な成長を図るための環境を整えます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ全員が打ち合わせに参加できる時間の確保が難しいです。	出勤時間にバラつきがあり、時間の確保が難しいです。	書面で把握する等、スタッフ全員に周知できるよう努めます。
2	子どもの安全確保に関して、取組内容の情報をご家族が把握できていません。	避難計画や訓練は、利用時には実施されているが、ご家族を対象に行っていません。	事業所内に避難経路や避難所を明記、掲示し、ご家族へ周知する。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		とおりゃんせサードプレイス海 放課後等デイサービス					公表日 2025年9月25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		必要に応じて人数を調整している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関はバリアフリー化されている。階段には手すりが設置されている。扉は引き戸で車椅子利用の子も過ごしやすい環境となっている。掲示物が少なく、活動に集中しやすい。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃。 活動の種類によって、部屋を使い分けている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		用途に応じた複数の部屋を用意している。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務内容をその都度振り返り、職員全体で改善を図っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケートを行い、結果をホームページで公表している。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の申し送りを実施し、早期対応できるよう努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		積極的に外部研修に参加している。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		BBITや基本情報の質問紙法でアセスメントを実施している。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育士、機能訓練スタッフなど多職種でプログラムを立案している。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節の行事の取り入れや、お出かけの実施などを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援内容の進捗状況を確認し、多職種で連携している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		出勤時間にバラつきがあるため、打ち合わせ時間を確保できていないのが現状であり、今後の検討事項である。翌日に申し送りをしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容の選択や、活動中の随所で自分で選択して実行する時間を設けている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		在学中に終了となる児童がほとんどであるため、福祉サービスへの移行は現在はない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		季節の行事を保護者、きょうだい参加型で行い、交流を図れる場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の通信やホームページ、Instagram等のSNSを通じて発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		コミュニティの場を作るため、玄関にカフェスペースや持ち寄った不要品のお持ち帰りコーナーを設置している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		自然災害や感染症等に対するBCPの策定。避難訓練の実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		身体拘束・虐待防止マニュアルの策定。指針をホームページで公表。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束・虐待防止マニュアルの策定。指針をホームページで公表。	